

良識ある保守主義

支持政党なしの方々の代表 (前町田市議)

吉田つとむ

<編集発行>

支持政党なし TOKYO
〒194-0011 町田市
成瀬が丘 1-14-12
サンホワイト E103-13
自宅 042-795-7361
FAX 042-795-2726
yoshidaben@gmail.com



就業者の配分を増やす事が重要

中央の政治において、働く人の賃金をアップすることの重要性が岸田総理自ら語っています。財界もそれを概ね支持する見解が出されています。果たして、それが満たされる条件が整っているのでしょうか、大いに疑問です。それは、これまで労働分配率は一向に増えず、企業の内部留保が優先される、あるいは資本の配当が高く設定されているという現実が続いているからです。

なぜ、多くの人が好ましくないと考えるあり方が日本に限らず、世界を席巻しているかというと、「お金がお金を集めるあり方が最も効率的だからだ」という見方があります。つまり、その解決方法は労働と資本が分離している限り、その富の分配方法の優劣は変わらないという現実的な判断だと思えます。

それでは、就業者が資本の側にも参加するというのが、新たに創出されている「ワーカーズコープ」の考え方だろうと思っています。その分、リスクも含まれますが、それを支援するのが自治体の今後の役割になるのだろうと思えます。



ワーカーズコープ連合会の事業を尋ねる

◎「支持政党なし TOKYO」は、支持政党を持たない、持ちたくない人の意見を代弁します。

◎「良識ある保守主義」は、既存の社会体制を前提に法治主義による秩序を重視し、柔らかな思考のもとについて議論をする立場です。

●吉田つとむは都議選に挑戦し6位落選(15543票)市議会で過去3期連続トップ当選

中学校全員給食導入と給食センター設置

町田市の公立中学校では、2024-2025年度までによりやく完全給食が実施されます。町田市のHPを見ると、それまでいかに議会で教育委員会の従来の方法(注文弁当方式)に問題があったという議論がすっかり消されてしまい、見当たりません。ともあれ、改善されるから前進と見なしたいと思います。

計画では町田市内全部で3カ所の給食センターを新設し、旧来の施設(相原町のゆくのき学園)を使い、導入するものです。私を含めて主張してきた給食センター方式に重きを置き、自校方式を全部に導入するのは所要時間も、建設費用も莫大で導入が難しいという見解が支持されました。



2020年2月

視察見学を受け入れていただいた八戸市

今後の課題は、どこまで温かい料理を搬送できるか、それを生徒の机まで移送できるかということがあります。現在の業者委託弁当給食では、1階にある保管スペースに取りに行くのに余りに時間がかかり過ぎ、昼休みが少なくなってしまうという問題があり、配膳スペースを各教室のフロアまで事前に運んで置くことも必要な改善です。

町田市政の今後の課題と話題

支持政党なしの方々の代表 (前町田市議)

吉田つとむ

支持政党なし TOKYO
〒194-0011 町田市
成瀬が丘 1-14-12
サンホワイト E103-13
自宅 042-795-7361
FAX 042-795-2726
yoshidaben@gmail.com



インターンシップが好評

議員が身を切る方法(寄付行為)

国民一律10万円の給付金が出た時、それを政治家がそのまま受けとって良いものかという疑問があり、当時の所属党派(保守の会)5人全員が、寄付をすることで一致すると、他の議員らに提示しましたが、町田市内や東京都内で寄付をすると買収行為に当たるという批判が起こる可能性を見て、東京都外に寄付をすることを考案しました。

具体的に提案したのは深沢ひろふみ議員で、彼が不織布マスクを購入できるルートがあるといい、吉田つとむが、関係者を通じて調査を行い、相模原市の障がい者作業所に寄付をしたら喜ばれるのではないかと提案しました。相模原市に協力を求めると快諾されました。1万枚の不織布マスクを届けると、本村市長からも大変喜んでいただき、地域紙でも紹介され評価を受けました。*この種のケースで政治家のお金を政党に寄付する方法を提示する論がありますが、それは橋下元大阪市長が(本人が寄付金控除を受けられるなどの理由で、)不透明な方法だと説明しています。政党活動を通じて、本人に資金が還流されることや、政治家個人を利用する行為に直結するためのものではないでしょうか。



◎ 政治を若者視点でとらえ、その世代に託すべき中高年世代の責任を果たします。

◎ 今の政治家は、若者世代に模範を示すべきであり、私はその世代にできるだけ敬愛されるよう、心がけたいと思っています。

●吉田つとむは、組織の声を代弁するのではなく、個人の意見や願いを聞く政治を提唱

ゴミ収集民間委託と、個別収集

表記は石阪市長の施策ではなく、寺田前市長と当時の議会で決定したものです。当時、寺田市長がゴミ収集民間委託化を図り、その反対請願を多数で不採択(不可決と同義)とし、吉田つとむを含めて議会の多数派が市長に賛同、連携した結論を出しました。その際、ゴミ収集の有料化と戸別収集化も決まりました。ゴミ減量を排出者レベルで取り組むべきだという理由でした。また、一般の説明会で、「子どものおむつも有料化されるか、子どもを産むべきではないのか」と意見があり、吉田つとむはその意見を重要と考え、議会で紹介しました。論議して、行政もそれは無料袋を提供する方法を採用しました。



その後、石阪市長は高齢者のゴミ収集も無料に変更しましたが、吉田つとむが市議会に復帰し、それに異議を唱えました。高齢者の方が若者より所得や資産があることが背景でした。十分な論議を行い、他議員の過半数以上の同意を得て、決算の改善事項として盛り込み、元の制度に戻しました。

若い世代の育成に全力をささげる

支持政党なしの方々の代表 (前町田市議)

吉田つとむ



ブログ



個人HP



メールは左記を添えて送信



インターン生募集中
社会見学・体験勉強

小田急のこども全区間50円均一料金導入と他社の対応、それで町田市はどうなるか

前回の記事では、小田急電鉄がその営業区間の全域で子ども料金=50円(IC使用の場合)とし、今年の4月からそれを導入することを書きました。全国でも初めてのことです。もちろん、収入が減ることは明白であり、年間数億円のマイナスが生じる値下げの措置になります。それでも、小田急がこのこども一律50円を導入するのは、「子育て促進」というテーマを優先したためであり、首都圏の私鉄路線の中でその世代の乗客を長期的に得る方法として極めて有効な施策と言えます。

今は東急電鉄と京王電鉄は様子見のようですが、実際に小田急のこども50円が実施されると、ライバルの鉄道会社として傍観はできないものではないでしょうか。総じて、鉄道の新サービスが開始されるでしょう。この東京西南部に人の生活環境の好転をもたらし転換が開始されることになり、自治体もそれにタイアップする取り組みが必要だと思います。



市庁舎の屋上に集合し、撮影を頼んだ写真

◎ 吉田つとむは、「若者育成」を一番の政策課題としています。

◎ 高齢者(標準70歳)も就業するのが社会参加の一番の在り方と考えています。

◎ 就職氷河期、コロナ世代の安定就業を政策課題とし、中高年は若者を育成することに奉仕する。

情報公開を条例施行時から推進

支持政党なしの方々の代表 (前町田市議)

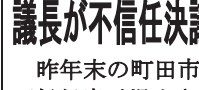
吉田つとむ



ブログ



個人HP



メールは左記を添えて送信



市内に限らず、広く見学

町田市議会のネット中継は先進地に学ぶ

ネット中継を開始したのは、東京の自治体では世田谷区が最初で、2番目が町田市議会です。それも行政が始めたわけではなく、町田市議会が独自に先行して取り組みました。



全国で最初にインターネット中継を開始したのは、富山県魚津市議会です。山間地が多く、ケーブルTVの普及が進まず、その代替えに導入されたものでした。当時、通信回線は一般の公衆電話回線を利用する段階で、通信速度がとても遅い課題がありました。当時、町田市議会では私が最初に提案したのですが、多数の支持が得られませんでした。次いで、ネット中継がオンデマンドで視聴できる方式が北海道室蘭市議会でも導入されました。画期的な技術でした。これも現地に自分が出向いたり、他の議員にも案内してその意義を訴えました。私が、議会運営委員会委員長に就任した直後からオンデマンドネット中継を推奨しましたが、長村敏明議長の時代の最終段階で導入できました。現在では、多くの議会が導入する技術であり、町田市議会に無い先進的な先端技術では、その記録音声を利用して議事録も同時作成する方式があります。

◎ 吉田つとむは、①町田市に対して情報公開請求を行った最初の町田市民で、それまで一切公表・公開されていなかった市長交際費使途の一部公開を実現しました。

◎ 福島原発爆発事故では、町田市内を市民連携で放射線量の測定をして公表しました。

◎ 行政には情報公開、自分自身では自己開示の政治を追求していきます。

議長が不信任決議で辞職した町田市議会

昨年末の町田市議会本会議最終日、議長の不信任案が提出され、可決された結果を受け、議長が辞職し、新しい議長に佐藤伸一郎議員が選出されていました。さて、議長辞職ですが、提出者である大西宣也議員の議長の不信任案の提案理由をネット中継で聞くと、主要には議長公用車の私的利用と、その説明が納得できるものでなく、不信を持たれるものだという発言でした。それ以前の議会運営委員会や、議会の一般質問の趣旨から推測すると、多々あるようでしたが、シンプルにまとめられていました。

本来、議長本人の弁明や、提案者への質疑、あるいは賛否の討論があれば、この種の話はもっとリアルになるのかもしれませんが、一切それらが無い中で、議長の不信任案の賛成者が倍以上になっていることから、どちら側に正当性があるかは明白と言えます。思うに、議員で高い役職に就いたものは、「稲穂は実るほど頭を垂れる」のが信条であるべきでしょう。他に対応する時、とりわけ、一般職員への対応は間違っても自分が上位にあるという態度を取るべきではないというのが、その議長、あるいは副議長を経験した私の認識です。



私が議長を務めていた時代、議員室の訪問者

若い世代の育成に全力をささげる
支持政党なしの方々の代表(前町田市議)

吉田つとむ

＜編集発行＞
支持政党なし TOKYO
〒194-0011 町田市
成瀬が丘 1-14-12
サンホワイト E103-13
自宅 042-795-7361
FAX 042-795-2726
yoshidaben@gmail.com



先輩インターン生は
実社会で元気に働く

インターン生募集: 2022 年春=第 49 期生

2022 年春のインターン生を募集しています。前町田市議会議員 吉田つとむは、自分が議員である時も、そうでない時も 1998 年よりずっとインターン希望の学生を研修生として受け入れてきました。

当初のインターン生は、インターンシップの仲介機関の紹介によって受け入れていましたが、現在は、学生の直接応募によって、受け付け、面接、採用決定として段階を通じて、受け入れを行っています。詳細は、HP をご覧ください。



インターン体験記④ 泉 いずみ

町田市立国際版画美術館で開催されている『版画の見かた-技法・表現・歴史-』を鑑賞しました。版画の技法や道具、完成までのプロセスが示された作品が並んでいます。

版画はアートだけではなく、情報を絵や言葉として記録する情報伝達メディアとしての一面もあります。植物や動物を図鑑として記憶している解像度の高い絵が多く作られていました。版画の精密性に惹かれました。貝の化石が細かな線と色彩でリアルに表現されており、見たことない化石ですが想像して感じることができました。

★ 吉田つとむのインターンシップは 1998 年に開始、多数の体験者が実社会で活躍中。
★ インターン生に政治活動の参加は一切求めず、あくまで社会勉強・見学のメニューです。
◎これらのレポートは、吉田つとむの研修生で令和3年(2021年)参加の体験記です。



小さな面積の作品でも手で擦って写すのではなく、とても大きなプレス機で写しとられていて驚きました。綺麗な版画には相当な圧力が必要なのだということが機械からうかがえます。

制作途中で版を刷って、形や色を確かめながら板を掘っていくプロセス作品が展示されていました。油絵や日本画などのプロセスは映像でしか確認することができませんでしたが、版画はその時々で手順や制作意図が感じ取れて面白く思えました。

版画のアート性だけでなく、情報を伝えるメディアとしても一面を垣間見ることができて勉強になりました。



多摩美術大新卒 泉 いずみ(第 48 期研修生)

インターンシップ推進
支持政党なしの方々の代表(前町田市議)

吉田つとむ

QRコード
ブログ 個人HP
メールは
左記を誂込
して送信



インターン生の要望に
もとずく研修内容

インターン体験記① 松村 英美里

銀座メゾンエルメスのアート・ギャラリー「フォーラム」で開催された、「Les Couleurs en Jeu ル・パルクの色 遊びと企てにて」という展覧会を鑑賞しました。

この度はロシア構成主義からの影響のもと、幾何学的な抽象画の制作を始めたル・パルク氏の日本初の個展に足を運びました。ル・パルク氏はヴィクトル・ヴァザリリの作品への共鳴や、視覚芸術探求グループ(GRAV)を結成するなど、アーティスト同士の協働による活動も並行して熱を入れていたという背景を持ちます。GRAV は、視覚的錯覚あるいは動力を用いたキネティック・アートや公共の場における観客参加を促す作品を通じて、従来の美術作品の枠組みや鑑賞方法を覆すような体験を社会に提案したもので、視覚的遊びやゲームの要素を用いることで、誰もが平等に芸術に参加してほしいという主張をもとに展開されたものだからです。



◎ 吉田つとむのインターンシップの特徴は、①募集・応募、②面接・決定、③カリキュラム作成、④訪問先交渉・調整、⑤訪問・見学・面談、⑥レポート提出というプログラムで進めます。標準では 10 回の研修・体験コースを組んでいます。
なお、吉田つとむのインターンシップでは、政治活動の体験・参加はプログラムに入れない原則です。

確かに、どの作品にも遊び心が散りばめられていて興味深かったですが、どれも複雑な計算のもと構築された実に非情緒的な作品に感じました。心理学の拒否を求めているようだが、錯覚の利用にそれが叶うのかと疑問を感じました。この展示では、常に鮮明な印象をもたらす「色」を主題とし、14 色のみを用いた作品群は、幾何学的なフォルム、あるいは可変性のメタファーとしてとらえるもので、ル・パルク氏の定義する美の主張、見るものが常に行為者でいて欲しいというメッセージを読み取ることができました。また、抑圧する何者かからの解放運動を芸術行為によって先導していくことの新規性も感じました。ル・パルク氏の主張の熱量価値と反比例する無料展であるという点と大作らの展示方法を鑑みると、とても魅力的な展示だと評価できます。

筑波大1年生 松村英美里(第45期研修生)



若い世代の育成に全力をささげる
支持政党なしの方々の代表(前町田市議)

吉田つとむ

＜編集発行＞
支持政党なし TOKYO
〒194-0011 町田市
成瀬が丘 1-14-12
サンホワイト E103-13
自宅 042-795-7361
FAX 042-795-2726
yoshidaben@gmail.com



女子大学が参加者数で
1 位、3 位を占める

インターン体験記⑥ 只野 里奈

一般社団法人ディーセントワールドは障害のある方の経済的自立を支援し、一般就労を目指す利用者を応援するため、就労継続支援 A 型事業所としてスワンカフェ&ベーカリー町田店・さがまち店を運営しています。今回はさがまち店を訪問しました。代表理事からはディーセントワールドについてのお話や、スワンカフェ&ベーカリーについてのお話を伺いました。こちらのお店では主にカフェでの飲食の提供、パンの販売、高校などへの訪問販売を行っています。実際に、パンとお食事を美味しくいただきました。



また、事業形態についても説明いただきました。就労継続支援 A 型事業とは、障害のある方が雇用契約を結んだ上で働くことができる障害福祉サービスです。障害のある方の賃金の低さが問題となっていますが、雇用契約を結ぶ A 型事業所では、最低賃金以上の給料が保証されています。(A 型事業所以外の障害福祉サービスは雇用契約を結ぶことが義務化されていません。)その後、さがまち店店長に案内していただき、キッチンを見学しました。そこで働く障害のある方から、直接やりがいや大変なことを伺いました。私はこの日初めて障害のある方の一般的な給料を知り、あまりの少なさに驚きました。障害のある方が生きやすい世の中になってほしいと願うのと同時に、ディーセントワールド様が行っている取り組みの大切さを強く感じました。

インターン体験記⑤ 西村 彩香

国会議員の元インターンシップ生からお話を伺い、参議院事務局という仕事の存在を初めて知りました。本会議や委員会、会議などで円滑に議論が行われるようにサポートを行ったり、政策立案の支援や国会の広報活動などを行ったりしているそうです。また国会の建物自体の管理や国会内の警備なども参議院事務局の業務内容であることを知り、想像以上に様々な分野の仕事があり驚きました。参議院事務局についてのお話から社会人としてのお話など様々なお話を伺うことができ、とても勉強になりました。

民主主義の最前線である委員会の議論を支え、参議院の意思決定機関である本会議の審議を支えることは、参議院の立法機能を支えることであり、立法過程を間近に携わることができる公務員は素敵なお仕事だと思います。今回のインターンシップに参加していなければ、貴重なお話を伺うことができず、参議院事務局という仕事の存在も知ることができなかったと思うので、とても貴重な体験をすることができ、有意義な時間を過ごすことができました。



昭和女子大3年: 西村彩香(第48期研修生)

インターンシップ参加者大学名一覧 (50 音順に記載): 青山学院大、桜美林大、大原専門、神奈川大、共立女子大、慶応大、国際基督教大学 (ICU)、恵泉女学園大、駒沢大、芝浦工大、首都東京(東京都立大)、昭和女子大、上智大、白百合女子大、成蹊大、成城大、専修大、創価大、玉川大、多摩美大、津田塾大、中大、筑波大、帝京短大、東海大、東大、東京家政大、(右面に続く)

高校生から大学卒業生まで幅広く参加
支持政党なしの方々の代表(前町田市議)

吉田つとむ

QRコード
ブログ 個人HP
メールは
左記を誂込
して送信



文系から理系、さらに
芸術系まで幅広い参加

インターン体験記② 泉 いずみ

渋谷 bunkamura ザ・ミュージアムの『ポーラ美術館コレクション展』に行きました。モネやルノワールなどフランスで活躍した絵画が展示されています。「甘美なるフランス」という美しく穏やかなフランスとその文化を賛美するための表現があります。その言葉通り、色鮮やかで優しく包み込むような油絵たちに癒されました。

『睡蓮』で有名なモネですが、睡蓮は 200 点以上のシリーズ作品だということに驚きました。何度も同じモチーフを描いたということに執念を感じました。後世に残るような作品をとして印象に残った作品は点描画です。点描画は絵の具が混ぜ合わさっていくことで色が濁り、明るさが減少してしまいます。絵の具を混ぜずに無数の小さなドットを重ねることで光を表現する「色彩分割」という技法でした。独特なタッチで遠くから眺めても近くからじっくり鑑賞しても飽きずに楽しむことができ、明るく色鮮やかで気持ちまで軽やかに弾みました。

感性のみで描くのではなく、巨匠たちは日々研究し様々な技法を試していました。才能の一言だけでは片付けられません。

進学試験まで残り僅かですが、吉田さんのもとで学んで受験に活かしていきたいです。



第 48 期研修生 泉いずみ(多摩美術大新卒)

インターン体験記③ 泉 いずみ

吉田つとむさんが構成メンバーの一人でもある清溪セミナーに参加しました。清溪セミナーは神宮外苑の日本青年館で行われていて「政経セミナー」という意味合いもあり、議員とそれを目指す人や地方政治に関心がある人が集い討論できる場になっていました。



まず始めに私が驚いたのは、講演に登壇している人の熱量です。資料に頼らず私たちの目を見て話して頂けました。自分たちの言葉で勝負しているということが真摯に伝わってきました。しかし内容としては、地方自治や政策活動報告を話されていて、少し難しく感じましたが、普段自分の住んでいる地域の政策にしか興味が持てなかった私にとって、他の地域の政策に興味を持てたことは清溪セミナーに参加してよい点でした。

関心を持ったのは、大阪府茨木市のまちづくり総合計画についてです。総合計画は、茨木市をどのような「まち」にしていきたいのか、そのためにどんなことをしていくのかをまとめたものです。茨木市のロゴは大学生が発案して投票で決められたもので、大阪北部地震後にキャッチコピーを追加したり、コロナによる緊急事態宣言に合わせてデザインを変更するなどの活動報告を受けました。

多摩美術大新卒: 泉 いずみ(第48期研修生)

(参加者一覧: 左面からの続き) 東京外語大、東京経済大、東京女学館大、東京都市大学、東京薬科大、東洋英和女学院大、日大、東京女子大、一橋大、フェリス女学院大、法政大、明大、明治学院大、立教大、早大、高校生。
* 3 人以上の参加者がある大学名は水色で表示しています。